



シリーズ 第78回 人権

子どものため？私のため？

私の子どもは人付き合いが苦手で、家の周りに友だちはできず、誘いに来てくれる友だちもいません。小学校へ登校する時も一人です。学校でも、休み時間に校庭に出て友だちと遊ぶことも少ないようで、帰りの時間には友だちと誘い合うこともなく一人で帰ってきます。地域のミニバスケットボールチームの練習に誘ってもらったこともありましたが、体を動かすのが好きではなく、周りの雰囲気にもなじめず辞めてしまいました。また、勉強も、毎日根気よく机の前に座っている姿を見掛けることはほとんどありません。

そんな子どもに対して親である私が望むことは、いつも大勢の友だちに囲まれてほしい。家では友だちとの出来事をたくさん聞かせてほしい。スポーツは上手でなくても、付き合い程度にできればいいので大きくなってでも続けてほしい。勉強は得意でなくても、勉強することは好きになってほしい。いや、嫌いでなければいい。そんなことをいつも望んでいました。そして、そのような姿にならない子どもに対して、自分の考えを言い聞かせようとしていました。

でも、私が望んでいることが子どもにとって正しいことと言い切れるのだろうか、心の中で葛藤している私もいました。親である私が小学生の頃を振り返ると、似たような感じだったことを思い出します。引っ込み思案で、物おじしがちで、友だちといえる人は限られた数しかいなくて、趣味にもスポーツに

もほとんど興味がわきませんでしたし、勉強に至っては…。そんな自分を後悔してはいませんが、自分ができなかったことをできるようになってほしいと望んではいけないとも思いません。ただ、毎日どんな思いでいるのか、どうしたいと思っているのか、私は分かっていなかったし、知ろうとしていなかったことに気が付きました。

そのことに気が付いたとき、まず子どもの思いを知ることが重要で、その上で、どうしていきたくかを一緒に考えていくことが必要ではないかと思うようになりました。しかし、子ども自身も自分がどうしていきたくと思っているのかは、最初から分かっている訳ではないかもしれません。だからこそ、語り合いを積み重ねることが大切だと思います。

子どもの幸せを願うあまり、親は必死になって叱ることがありますが、いつの間にか親の価値観を押しつけてはいませんか。子どものためを思って伝えているつもりでも、実は自分自身のためにそうしているだけではありませんか。子どもは親の保護を受けてはいませんが、支配されている訳ではないと思います。小さくてもそれぞれが自分の意志を持っています。

私は、つい忘れがちになるそのことを心に留め、まず自分自身を見つめ直すこと。そして、子どもの思いを聞きながら一緒に考えること。今は、そのことを大切にしながら子どもと向き合っています。

(50代・男性)